

レジメン名 : FOLFIRI+ベクティビックス 2週毎(ポンプ)

疾患名 : 大腸がん

投与間隔 (1コース期間) : 14日間

総コース数 : PDになるまで

特記事項 : フィルター付きルート使用、RAS遺伝子野生型、UGT1A1測定

投与順序	レジメン内容 (医薬品名)	投与量	単位 (mg/㎡, v等)	投与方法 (手技)	投与時間 (速度等)	投与日 (Day1等)	備考 (内服薬の用法等)
Rp.	1 生食100mL	1	瓶	点滴静注・メイン	15分	Day1	ルート確保用 フィルター付きセットを使用すること
	ハロ/ヒロン点滴静注バッグ0.75mg	1	袋				
	2 デキサート6.6mg	1	瓶	点滴静注・メイン	15分	Day1	
	デキサート1.65mg	2	管				
	3 ベクティビックス	6	mg/kg	点滴静注・メイン	60分	Day1	
	生理食塩液 100mL	1	本				
	4 生理食塩液 50mL	1	袋	点滴静注・メイン	15分	Day1	
	5 5%ブドウ糖 250mL	1	袋	点滴静注・メイン	2時間	Day1	イリリテカンと同時に 2時間で投与
	レボホリナート	200	mg/㎡				
	6 イリリテカン	150	mg/㎡	点滴静注・側管	2時間	Day1	レボホリナートと同時に 2時間で投与
	生理食塩液 250mL	1	袋				
	7 フルオロウラシル	400	mg/㎡	点滴静注・メイン	急速静注	Day1	レボホリナート終了後、 全開で投与
	生食 50mL	1	本				
	8 フルオロウラシル	2400	mg/㎡	インヒューザー ポンプ	46時間	Day1	ホーラスのフルオロウラシル終了後 46時間で投与 全量140mLとする
	生食 100mL	1	本				
	9 生食シリンジ20mL	1	本	点滴静注・メイン		Day3	持続のフルオロウラシル終了後使用、 フラッシュ用

減量基準

減量規定 (副作用名等)	減量条件 (検査値等)	抗癌剤名	減量割合等 (減量後の割合又は投与量)
白血球減少	2,000/mm ³ 未満	イリリテカン	減量(割合についての記載なし)
	1,000/mm ³ 未満		中止
好中球減少	1,000/mm ³ 未満	イリリテカン	減量(割合についての記載なし)
	500/mm ³ 未満		中止
皮膚障害	重度(ステロイドの全身投与を要する、又は忍容不能と判断される毒性。抗生剤又は抗真菌剤の静脈注射を要する感染。創面切除術を要する毒性。重篤な有害事象)	ベクティビックス	回復、重傷度の程度に応じて中止・減量
低Mg血症	1.2mg/dL以下	ベクティビックス	心電図計測。Mg補充。中止、休業、減量など検討

参考文献

- ①大腸癌治療ガイドライン 医師用 2019年版
- ②制吐薬適正使用ガイドライン2015年10月(第2版)
- ③改訂第6版がん化学療法レジメンハンドブック
- ④ベクティビックス適正使用ガイド